

アドバイザー派遣事業実施レポート

地域とともにある学校作りグループ

実施期日：平成 28 年 10 月 18 日（火）

実施場所：鳥取市立醇風小学校

研究テーマ

心ときめかせ、ふるさとと ともに伸びる児童

～課題づくりや自分のよさを実感できる振り返りを通して、

主体的に学び続ける児童の育成～

授業公開 5校時 13:30～14:15

1年 生活科

単元名「あきとなかよし～むしはかせになろう～」

5年 はばたき学習（総合的な学習の時間）

単元名「輝け！醇風の宝～とうふちくわを盛り上げよう～」

わかば学級 はばたき学習（総合的な学習の時間）

単元名「魚 魚 魚 ～もっと魚を好きになろう～」

研究授業の視点

児童の思考に沿った授業づくりが行われているか

研究協議会 14:35～16:45

指導助言（アドバイザー） 愛知教育大学教授 中野 真志 先生

14:35～

あいさつ

14:40～15:05

研究協議（1年、5年、わかば学級のグループ協議）

15:05～15:15

全体報告

15:15～16:45

指導助言 愛知教育大学教授 中野真志先生

16:45～

あいさつ

指導助言者に愛知教育大学教育学部教授 中野真志先生と東部教育局 長見圭祐指導主事をお迎えして、授業研究会を行いました。

1. 研究協議について

特別支援学級グループ

- カード作りをすることで子どもたちの魚への関心が高まり、意欲的に魚を調べようとしている。
- ゲームという楽しい活動を3人で一緒に取り組むことで、子どもたちがより関わることができた。
- △魚のカード作りへの必要感を子どもたちは感じているのか。ゴールが子どもたちに明確だったか。

児童の思考に沿った授業づくりについてもっと追究したいこと

- ・遊びを取り入れた、興味がもてる授業づくり
- ・学級での協力や人間関係づくりの涵養



低学年グループ

- 虫はかせの基準が明確だったので、子どもたちが判断しやすかった。
- 豊かな体験活動を継続して行ったことが、振り返りの充実につながっていた。
- △学習活動の中に、協同的な学びの場面を仕組むことができたのではないか。

児童の思考に沿った授業づくりについてもっと追究したいこと

- ・豊かな体験活動の継続
- ・振り返りの充実



高学年グループ

- 自らの体験や写真、先生たちの料理へのアドバイスなどの資料を提示することで話し合いが盛り上がっていった。
- 相手意識を明確にもたせていることが、レシピ作りや話し合いの視点として効果的だった。
- △導入の時間配分（5分以内）。思考ツールの選択の仕方。



児童の思考に沿った授業づくりについてもっと追究したいこと

- ・グループ活動における進行方法
- ・子どもの思いから意欲へつなげる手立て



2. 中野先生の指導助言

特別支援学級

「長い目、広い目、基本の目」で評価していく。良いところをその都度適切にほめて認識させる必要がある。

中学年

写真という具体物を見て振り返ることが良かった。写真を見せる時に意味づけ、価値付けをしていくことも大切である。1年生は自分が中心なので、他者を意識して協力する活動へとつなげていきたい。

高学年

板書を見て子どもたちが振り返っていたので板書が効果的であったと言える。食べてもらう相手が子どもの視点に合っているだろうか。味覚の違いを意識させる必要がある。